

司法制度や刑罰制度の見直しがすすむ中 「日独裁判官物語」を見ながら 死刑について考えてみませんか？

東京拘置所のそばで死刑について考える会（そばの会）
東京都荒川区南千住 1-5 9-6-3 0 2

陪審制の導入などが検討されている「司法改革」について先月のピラで紹介しました（誰も知らないって!?)。今月は刑罰制度についてです。

いま、政府与党の中で、仮釈放のない終身刑の導入を検討する議論がはじまっています。

終身刑が検討されているのには、二つの流れがあるようです。

ひとつは、死刑制度の見直しを求める立場から、終身刑を代替刑とすることで死刑を減らし、なくしていくという姿勢です。

もうひとつは、少年法をめぐる議論などにもうかがえるように、犯罪に対して重罰化を求める傾向を意識したものです。

法務省は現在のところ「仮釈放も認められないというのは受刑者の社会復帰をめざすという処遇理念に反する」として否定的なようです。（もっとも出獄してきた方の体験談などをうかがうと、とても社会復帰をめざした処遇とはいえない、単なる懲らしめでしかないのが現実のようです）

この議論がどのように進められていくのか、私たちは関心をもって見守っていますが、たんなる「重罰化」で問題が解決するとは思えません。日本の失業率と刑務所の収容率の増減が比例しているように、「犯罪」の多くは社会の問題の「結果」でもあるからです。また、刑罰のありかたを考えるためには刑期の長短だけではなく、どんな環境でどんな処遇が望ましいのかも重要なことでしょう。

終身刑そのものへの賛否はともかく、この議論が、さまざまな問題のある刑罰制度の改善へのきっかけになればと思います。

★ ★ ★

第6回目の「ビデオを見ながら死刑について考える集い」は『日独裁判官物語』（約1時間）を上映します。「市民生活が自由で活発なドイツの裁判官、家にこもることの多い日本の裁判官。これが両国の司法の状況を象徴的に現わしています。この映画は、ドイツを鏡にして日本の裁判官・裁判所の姿を映し出し、その実情を多くの方々に知っていただくために」（リーフレットより）つくられたものです。元裁判官の方にも出席していただく予定です。お楽しみに！

第6回ビデオを見ながら
死刑について考える集い

『日独裁判官物語』

11月18日(土) pm6:00～

綾瀬プルミエ（第5洋室）

(足立区勤労福祉会館・綾瀬駅西口そば)

ゲスト（予定）：安倍晴彦弁護士

(自由で独立した裁判官を求める市民の会、元裁判官)